



いとう やすお
伊藤 康雄

しんわかい
津和会

業務委託と職員2,500人体制について

問 平成24年12月3日より税務総合窓口が、平成25年1月4日より市民課窓口が民間業者へ業務委託されるがその目的と内容は。また、経費削減額はどれほどか伺う。2,500人体制については、どんどん職員を減らしていく中、業務に支障はないのか懸念を持つがいかがか。臨時職員等が多数任用されているが、2,500人にこだわらず、人件費の削減目標をもってはどうか。

答 税務総合窓口では、課の窓口を一つにし、ワンストップ化の実現により、簡素で効率的な税務行政の推進等を図るもので、証明書の受付・交付業務等を委託する。人件費約1,100万円の削減と職員が賦課徴収に専念できることで税收確保につながることを考える。市民課窓口では、混雑時でも安定したサービスを可能とする体制整備等を目的に、窓口の典型的業務を委託し、人件費約150万円の削減が見込まれる。正規職員を減らした分、臨時職員に置き換えているわけではないが、合併協議を踏まえ職員2,500人体制を目指す中、臨時職員等の制度を活用し円滑な執行体制を構築していく。人件費については、行革の中で、もう一度しっかり分析し、疑念を持たれないよう整理する。

●その他の質疑・質問●

- 市長は地方自治体の首長として政党の代表に就任している首長をどのように考えるか
- 平成33年開催の国体会場として競技誘致の見通しについて
- 未利用財産の有効活用について



▲平成25年1月4日から民間委託された市民課窓口



おか ゆきお
岡 幸男

けんとからぶ
県都クラブ

津市シティプロモーションについて

問 市民に「津市の魅力とは」と尋ねた時、自分の市を誇りに思い、外部の人に自らの市を誇らしげにアピールすることこそ、最も有効な情報発信だと考える。シティプロモーションの目指す理想のアピール方法として、どんなことを考えているのか。



答 平成24年4月からシティプロモーション担当を観光振興課から広報課に移し、シティプロモーションを広報戦略の一環として位置づけた。観光に限らず、地域の魅力を内外に伝えるため、市長自身が広告塔になることも含め、いろんな手段を融合させて広報戦略を展開してきた。津市には魅力ある景色や雰囲気を感じられる場所がたくさんあり、その一つ一つをPRして、市民の皆さんに津市には何かある、わくわくするまちだとプラス思考の考え方をさせていただくことが必要であると考えている。市全体のネットワークが形成されたガイドボランティアのような活動がさらに広まり、市民一人ひとりが津市の魅力を発信いただけるよう期待し、市長としても努力をしていきたい。

●その他の質疑・質問●

- 窓口業務、セクションの新設、改良で、目指す市民サービス向上の目標は何か
- 税務窓口として公権力執行への配慮等、改良に係る留意点は
- 業務委託・建設工事等の入札に関わって、再契約や次の入札への監督や指導等評価の反映を
- 津波避難ビル・津波避難協力ビルへの通信手段の確保が必要ではないか など



▲新設された民間委託業務の税務総合窓口